



山口・周防国府跡

周防国府跡

1	所在地	山口県防府市国衙五丁目
2	調査期間	第一六〇〇次調査 一二〇〇六年(平18)三月～六月
3	発掘機関	防府市教育委員会・周防国府跡調査会
4	調査担当者	佐々木達也・杉原和恵
5	遺跡の種類	官衙跡
6	遺跡の年代	古代～近世
7	遺跡及び木簡出土遺構の概要	

世には、山陽道と朱雀路（南へ下ると港・塩田地帯へ至る主要道）との

(防 府)

交差点として、二本の道標が建つ「辻」であった。古代から中世にかけての山陽道が国府域のどこを通つていたのかは未解明で、「辻」に関するることは、早計であるが、調査地は他地域に比べて中世の遺構密度が極端に高く、中世の国

府域における重要地点であったことは疑いない。

8 木簡の釈文・内容

木簡は、一六世紀に埋められた井戸から一点出土した。井戸は、

一辺約一・四mの方形木枠組が三・五mの深さ残存するが、上部は一m程度削平されていることが確実で、上部は石組の可能性もある。

木枠内の土層は四層に大別でき、井戸の廃棄過程を示すと考えている。最下層は、井戸が機能を停止した際、底面から一・三mまでを埋めたと考えられる層で、上面に砂礫を平坦に敷き均している。

(1)は、釣瓶などとともにこの砂礫層の直下から出土した。砂礫層の上には、その後の自然堆積と考えられる厚さ一・五m程度の層があり、その上に人頭大の礫（上部構造の石組残骸の可能性あり）若干と、さまざまな祭祀遺物を大量に含む厚さ〇・五mの埋土がある。(2)はこの層から祭祀遺物とともに出土した。最上層は、生活廃棄物、食物残渣を多量に含む埋土である。

祭祀遺物を多量に含む層では、完形の土師器杯・皿六五点、瓦質土器足鍋一点、イヌの骨格三体分のほか、墨書き石（二字一石）二点、長さ一六〇一七cmで片側に節を残した竹筒一〇本、一〇cm四方の薄板二〇枚（針状の細い棒一本を括り付けてある）など、祭祀具と考えられるが用法不明のものが多くあり、今後類例探索が必要である。墨書き石の文字は「本」二点、「王」二点、「神」二点、「咒」「給」「帰」各一点などで、一字一石経ではなく、何らかの願文の可能性が高いと考えている。

